

## 「広報ひの」のあゆみ

「広報ひの」は、毎月1日と15日に発行されている日野市の市報です。平成26年(2014)6月15日現在、通巻1329号を数えています。

広報の第1号は日野町の時代、昭和27年(1952)8月15日発行の「日野町広報」とされています。もっとも、戦時中にもガリ版刷りの「町報」が出されており、何をもって第1号と認定するかという、なかなか難しい問題です。というのも、これ以降も、「日野町広報」は幾度か第1号なるものが発行されているからです。

当時の広報は、号数の表記方法が不明で、「〇号」と書いてあるかと思えば「〇巻」と書いてあったり、何も書いていなかったりで、通し番号というものがなかったようです。発行も不定期でした。予算の都合なのか、紙のサイズやページ数もその都度違っていました。

昭和33年1月1日、「日野町・七生村合併広報」2号というものが登場します。この年の2月1日に、日野町と七生村が合併し、新しい「日野町」が誕生しましたが、これを機に広報も一新しようという試みだったのかもしれませんが。



日野町時代の広報

昭和35年1月1日から、なぜかまた日野町広報は「1号」が始まりました。しかし、同じ年の4月28日には突然、仕切り直して「通巻100号」から開始することになりました。101号ではなく100号からというのが不思議ですが、とにかくこれ以降、広報は定期的に発行されるようになりました。ちなみに、100号からは縮刷版が出来ているので、興味のある方は市立図書館などでご覧になってみて下さい（ただし100～299号までの縮刷版は字がとても小さいので虫眼鏡をご用意下さい）。

広報は月1回、中旬に発行され、新聞折り込みで各家庭に届けられていましたが、昭和42年2月1日号(188号)から、毎月1日と15日の月2回発行となりました。「広報ひの」という名称が使われるのは、昭和44年2月1日号からです。

なんと四コマ漫画が連載されていた時期もありました。初登場は昭和42年3月15日号(192号)で、れっきとしたプロの漫画家である森比呂志さんによる「泰平一家」という作品です。不定期での連載ですが、これがなかなか面白いのです。

また、昭和41年4月15日(177号)から連載が開始されたコラム「郷土史ライブラリー」は、「郷土史を探る」、「ひの歴史歳時記」などいろいろなシリーズを経ながら、この「日野の歴史と民俗」に引き継がれて続いています。

現在は、インターネットを利用して市外の人でも簡単に「広報ひの」を見ることが出来るようになってきました。さらに、「広報ひの」は次号からこれまでのタブロイド版からA4判フルカラーの雑誌タイプにリニューアルし、各戸配布に変わります。これにともない、「日野の歴史と民俗」の広報紙上での連載は終了しますが、以降は日野市郷土資料館のホームページで引き続き連載していきます。また、7月1日号広報から、新連載コラム「みんなのふるさとこぼれ話」がスタートします。どうぞお楽しみに。

最後に、「七生村報」についても触れておきましょう。昭和13年から同15年までの間に、ガリ版一枚刷りの「村報」が15号まで出されているのが確認されています。戦後になると、昭和26年8月15日に、鯨井惣輔を発行編集人として、第1号が出されています。鯨井は七生村会議員で、『八王子燃糸業史』などを執筆したことで知られています。しかし、「七生村報」は昭和27年3月に2号が出された後、どうなったのか分かっていません。(日野市郷土資料館 矢口祥有里)



七生村報 第一号  
(昭和26年8月)

◎これは「広報ひの」平成26年6月15日号に掲載された記事の詳細版です。

資料館にて印刷したものも配布しています。

(問) 日野市郷土資料館 (電話 042-592-0981)

ホームページ <http://www.city.hino.tokyo.jp/museum/>